

2026年 大 発 会

1月5日、2026年のスタートを切る大発会を行いました。

福岡市内の会員証券会社の方々をはじめ、市場関係者約30名の皆様にご出席をいただきました。

犬塚理事長が年頭の挨拶を行い、引き続き証券市場が益々活況を呈しますよう祈念して、各会員証券会社様から手を挙げていただいた年男・年女3名の皆様による銅鑼の打鐘を行いました。



最後に、田代理事（F F G証券株式会社 代表取締役社長）の音頭により乾杯を行いました。



理事長挨拶 (2026 年大発会)

皆さま、新年あけましておめでとうございます。
2026年、令和8年の念頭にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年は関税問題などで波乱はありましたが、日経平均株価は5万円を突破し史上最高値を更新しました。

今年の干支は丙午(ひのえうま)です。

丙(ひのえ)は、「陽の火」を象徴し、太陽のような明るさ・情熱・文明の力を表し、エネルギーの最高潮を意味する非常に縁起の良いものです。

午(うま)は正午の午であり、太陽が最も高い位置にある時刻を象徴します。

丙(ひのえ)と午(うま)には太陽や最高といったポジティブな意味があります。

また、馬は古来、神聖な存在とされ、舞うように福を呼び込む縁起の象徴でもあります。

そこで、私は「天馬空高く駆けるが如く」という表現を思い浮かべました。

天馬とは、天を駆ける神聖な馬であり、その姿は、ユニコーンのように自由と飛翔、そして限りない可能性を象徴しています。

私たちがまた、天馬のごとく、既成概念にとらわれず、空高く、力強く、未来へと駆け抜けていきたいと願っております。

本年につきましては、2026年度の政府予算案では、インフレや賃上げへの対応に加え成長投資や危機管理投資など「責任ある積極財政」が織り込まれており、「積極財政」が日本の成長につながるか市場は注目しています。

また、企業の賃上げや年収の壁の引き上げなどの減税効果により、個人消費は内需の拡大に寄与すると見込まれています。

米国では11月に中間選挙があることから、景気を意識した政策運営がなされると予想されています。

このため、日本企業の企業業績についても堅調に推移するとの予想が多く、コーポレートガバナンス改革の進展による外国人投資の増加もあり、株式市場に好影響を与えるのではと期待されています。

一方、積極財政に伴う金利の動向や日米の金利差縮小に伴う為替の動向などは不透明であり留意する必要があります。

さて、九州では TSMC の進出に伴い熊本を中心に関連企業の設備投資が活発化し雇用創出や地域経済の底上げに寄与しており、製造業や建設業も活況を呈しています。

また、九州へのインバウンドが過去最高を記録したほか、福岡空港の第2滑走路の供用開始や国際線ターミナルの拡張により、更なる観光客の受け入れ態勢が整備されました。更に、九州ではスタートアップ支援体制が整っており、スタートアップ向けのオフィス供給が進むなど地域ぐるみでスタートアップを育成する動きが加速しています。このような動きは今年も継続し、今年の九州経済は成長を続けると予想されています。

福証におきましては、昨年の新規上場は17社で、今年も東証の上場維持基準見直しの影響や一昨年開設した Fukuoka PRO Market もあり福証への上場が一定程度見込まれます。

今年も福証への上場会社の一層の増加を図るとともに上場後の着実な成長に向けた支援を強化するなど取引所としての機能を強化し、福証に上場してよかったと評価される取引所を目指します。

地域に直接金融の場を提供することを通じ、地域に必要とされ地域とともに成長し続けたい、投資家に信頼される取引所であり続けたいという福証の思いに変わりありません。

グローバル化など環境変化に応じ福証に求められる役割については、地域への影響や持続可能性を考慮しつつ、引き続き地域と連携して検討を進めてまいります。

「福を招く福証(福招)、福岡証券取引所」をキャッチフレーズに、役職員一同、今後とも地域経済の発展に全力で邁進してまいりますので、お集りの会員証券会社の皆さま、日ごろから福証を支えていただいている関係者の皆さまには、これまで以上にご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

最後に、今年が皆様にとりまして素晴らしい1年となり、経済と証券市場が活況となりますよう祈念しまして、新年の挨拶とさせていただきます。